



わたしたちが、ボランティアを始めたきっかけ

秋学期も始まり、これから新たなことにチャレンジしようと考えている人も多いのではないのでしょうか。何をしようかと迷っている方、ボランティアを始めてみませんか。ボランティアというと、真面目で意識が高い人たちの活動、あるいは逆に偽善者っぽいイメージを持っている人が多いのかもしれませんが、でも実際にはボランティア活動の実態を知らない人がほとんどだと思います。

では、これから紹介する桃大生は、何故ボランティアを始めようと思ったのでしょうか。その理由の中に、みなさんのこれまでの体験や考えと重なっている部分があるかもしれません。3名のボランティアスタッフ、通称『ボラスタ』のインタビューをご一読いただき、これから何かにチャレンジしようとするきっかけになることを願っています。

震災がきっかけで始めたボランティア



私は、高校まで神戸で過ごし、高校ではサッカー部に所属していました。私の出身高校は、阪神大震災で被災した神戸にあるということで、環境防災科が設置されていて、サッカー部の顧問が、環境防災科の先生ということもあり、高校生の頃から地元のサッカークラブチームのヴィッセル神戸と連携して募金活動を行い、東日本大震災や熊本地震で被災した子供たちをヴィッセル神戸の試合に招待する等のボランティア活動に取り組んできました。

大学進学に関しては、地元を離れて一人暮らしが良かったということと、海外留学に関心があったため、国際交流が盛んで海外協定校が数多くある桃山学院大学へ進学することになりました。

大学入学後も、ボランティア活動を継続したいという気持ちが強く、ボランティアスタッフのことを学内で配布されていたチラシで知り、ボランティアスタッフに入りました。

ボランティアスタッフとして参加した活動の中で印象に残っているのは、毎年10月に堺市で開催される「堺まつり」の仮装パレードに参加したことです。私たちは、「レトロファッション隊」ということで、明治大正時代の衣装を纏いましたが、その中で私は、陸軍将校の正装をして参加したので、一際注目を集めました。

その他には、大阪マラソンのボランティアに参加したことです。このボランティアは、参加するランナーへの給水・給食、コースの沿道整理等を行うのですが、ランナーから「ありがとう」と感謝の言葉をかけられて、逆に自分もランナーから応援されていると感じるとともに、このボランティアに参加してよかったという達成感を味わうことができました。

ボランティア活動以外で、大学入学時にやりたかったことは、海外留学です。

昨年は、中国と香港で実施されたアジアで異文化を学ぶBSP (Beginning Step Program)に参加したり、今年はインドネシアのバリ島のプリンビンサリ村にある児童養護施設でボランティア活動を行う国際ワークキャンプ(IWC)にも参加します。ボランティア活動や海外留学以外に取り組んだことは、先輩が後輩の学習をサポートする社会学部のピアインテグレーターとしての活動です。

社会学部を選んだのは、学ぶ範囲が広く自由度が高かったからなのですが、基礎演習の先生からピアインテグレーターに推薦されて、後輩の助けになりたいという思いで、新入生に対する学びや履修のアドバイス、授業運営のサポート、学びの活性化につながるプログラムの企画・広報等、学生の視点を生かして様々な取り組みを行っています。

これからも、「何でもやってみよう」ということを目標に何事にも挑戦し続けたいと思います。



堺まつりにて陸軍将校の正装でパレード



インドネシアワークキャンプにて現地の子どもと一緒に

平野 隆之介さん

(社会学科2回生)

障がいのある仲間のために力になりたい



私は、大分県出身で、高校生の頃から、福祉関係の仕事をしている母親の影響もあって、福祉を学びたいという思いと、海外と日本の違いを学びたいという二つの思いを持っていました。そこで、大阪に住んでいる親戚を訪ねた時に桃山学院大学のオープンキャンパスに参加し、桃山学院大学には福祉学科があり、海外留学にも積極的に取り組んでいるということを知り、入学を決めました。

ボランティアスタッフに入ったのは、友達に誘われたことがきっかけだったのですが、子どもと関わる機会が多いボランティアスタッフの活動で、どのようにしたら子どもが喜んでくれるかを考えることが、将来子どもにかかわる仕事がしたい私にとって、とても楽しいです。今まで参加した活動で、アイ・あいロビーで年6回開催されている「ももやまキッズランド」と、和泉府中駅の商店街で開催されている商店街全体のお祭りの「いずみ音楽祭」が特に印象深いです。

桃山学院大学に進学したもう一つの理由である海外と日本の違いを学ぶため、インドの歴史や文化を学び、マザー・テレサが創設した養護施設（マザーハウス）でボランティアを行う「インド異文化ボランティア体験セミナー」に参加しました。ちなみに参加費は全てアルバイトをして捻出しました。実際に現地に行ってみると、想像していたこととの違いにショックを受けました。日本では、ほとんどの人は住む家がありますが、路上生活者の多いインドでは住む家があるということが「幸せ」であり、自分の中の「幸せ」の概念が変わってしまいました。

その他に入学後で取り組んだことは、聴覚に障がいのある学生のためのパソコンテイクの活動です。通っていた高校の近くに支援学校があったこともあり、障がいのある仲間のために何か力になりたいというのが、パソコンテイクを始めたきっかけです。最初、e-typing(タッチタイピングを習得するためのツール)のレベルは、130ぐらいだったのですが、5月の講習会で150まで上げるように努力して、聴覚障がいのある学生の授業だけでなく自分が履修している授業でもパソコンテイクをするように心がけた結果、今では220ぐらいまでになりました。

これから目指すことは、将来児童養護施設など、子どもにかかわりのある所で働きたいので、社会福祉士と精神保健福祉士の資格を修得したいこと、インドやそれ以外にもマザー・テレサが創設した養護施設あるセブ島でボランティア活動をしたいことです。

桃山学院大学には、聴覚障がい以外にも様々な障がいのある仲間がいます。パソコンテイクやノートテイクだけでなく、みなさんの支援を必要としている仲間はたくさんいます。もし学内で何か困っている障がいのある仲間を見かけたら声をかけてみてください。そういう小さな一歩から支援の輪は広がっていくのです。困っている仲間を支援してあげようという気持ちを持つ人が今後増えることを願っています。



アイ・あいロビーでスライム作り



インド異文化ボランティア体験セミナーにて

小泉 夏美さん

(社会福祉学科2年生)

健常者と障がい者をつなぐ架け橋になりたい



私は、生まれつき聴覚に障がいがあります。もともとスポーツが好きで、小学校3年生から高校まで野球に打ち込み、主に内野を守っていました。チームメイトはみんな健常者ばかり。耳が聞こえないため、音で判断するのではなく口の形を読み取って話すことが中心である私は周りの会話についていけず、落ち込んだ時もありました。それでも私に対してゆっくりと話してくれたり、簡単な手話、ジェスチャーなど色々サポートしてくれ会話に溶け込むことができました。あの時は今でも本当に感謝しています。

耳が聞こえない私が、進学先として桃山学院大学を選んだ理由は、障がい者に対する支援体制が充実していたからです。授業中先生が話している内容を自分自身でノートに書くことはどうしても困難なため、パソコンや手書きで講義内容を記録してくれるサポート(パソコンテイク・ノートテイク)が必要です。受験生の頃にオープンキャンパスで行った大学はほとんどがノートテイクしかありませんでした。その中で桃山学院大学は、パソコンテイクとノートテイクの両方があり、聴覚に障がいのある学生の支援体制が充実していると思ったからです。授業中の90分間、パソコンでタイピングすることや、ノートを取ることは本当に大変だと思います。今は4回生で授業が少ないので、パソコンテイクやノートテイクのサポートは受けていませんが、今まで支援してくれた友だちには本当に感謝しています。

大学入学後は、野球のサークルに入りましたが、大学生活の中で親しくなった友だちに誘われてボランティアスタッフにも入ることになりました。高校まで体育会系だった私が大学で文化系を経験するとは思いませんでした。

ボランティアスタッフとして関わった活動の中で印象に残った経験が、2016年に発生した熊本震災復興支援ボランティアです。参加した理由は、困っている人のために少しでも力になりたかったということと、障がいがあってもどこまでできるか自分自身を試してみたかったからです。熊本でのボランティアは主に現地の子もたちと関わることでした。耳が聞こえないことで不便を強いられたこともありましたが、子どもたちや周りのサポートももらいながら活動することができました。

現在、大学生活以外にもユニクロでアルバイトをしています。アルバイトを始めたきっかけは、聴覚に障がいがあっても接客を試してみたかったからです。最初の2年間は品出しと商品整理だけでしたが、3年目から接客をまかせてもらえるようになり、また接客の経験を通じて、社会人として必要な礼儀等を学ぶことができました。

野球部、大学生活、ボランティア活動、アルバイト等、今までの経験を基に就職活動に臨みました。内定をいただいた企業には、困っていること等に相談に乗ってくれる先輩にも恵まれ、そのことが就職先としての決め手になりました。

今まで私が歩んできた人生を振り返ってみると、周りの友だちから沢山助けられてきたことが力になりました。私は本当に周りの仲間から恵まれています。これからも友だちを大切に、いつか自分なりに恩返ししていきたいと思います。



ボランティアスタッフの友人と



高校時代の野球部の仲間と

乾 優斗さん
(経済学部4回生)